2023年2月8日（火）19時00分～21時00分

主催：（一般社団法人）障がい児成長支援協会

共催：（株）アジアンクラス 「おとつむぎ」

～未就学から小学校までの実践が効果的～

『家庭でもできる子どもの力を伸ばす療育』

〇知能指数を伸ばす親子でできる活動事例

〇自己肯定感がアップするオススメの活動

〇家庭でできるSSTと構成的グループエンカウンター

（一般社団法人）障がい児成長支援協会　協会長

中部学院大学非常勤講師　　山内康彦（学校心理士・ガイダンスカウンセラー）

昔は、預かってもらえるだけで大満足

現在は・・・・

身近で、よりよいサービスを受ける時代

※単なる預かりから学校等と連携をとった療育へ

→有効な支援を共有し、子どもの支援に生かす

（個別の支援計画策定も）

※子どもが力を身につける施設（学力・社会性）

社会性を身につけ、就労まで見すえた長い支援

【専門的でよい療育施設を選ぶ３観点】

『人』『もの』『こと』が充実した姿勢を選択する

早期からの質の高い、継続した療育が有効

「児童発達支援」→「放課後等デイサービス」へ

子どもは環境によって“成長”が変わる

◎種は同じロシアひまわり　◎植えた時期も同じ

“療育の質”によっても成長が大きく変わる

◎畑は同じでも肥料の与え方によって大きく違う

療育の“時期”によって成長が大きく変わる

◎後から肥料を与えても・・・与える時期が重要

発育発達期の身体的特徴①運動の重要性

スキャモンの発育曲線から

なんと神経系（脳など）は７歳までに成人の９５％の大きさまで発達する。

幼児期～中学年にかけて感覚や、神経・筋コントロール能力の向上が著しい。つまり、今が大切！！

よく言われる“都市伝説”は本当！

①絶対音感は遅くても７歳まで！
②体操選手は未就学から！
③英語教育は小学校前から！
④ことばの教室は小２まで・・
（例えば“吃音”の指導）
治す訓練から・・・・・
付き合う訓練へ・・・・

心理学的にみた運動発達について

人は８０を超える基礎的運動パターンをもつ

「姿勢制御運動（バランス・ぶら下がる等）」
「移動運動（走る・跳ぶ・登る・スキップ等）」
「操作運動（投げる・蹴る・受ける・引く等）」

※６～７歳まで全てのパターンが習得される

だからこそ今、様々な動きを経験すること（運動の多様性）が大切

※「多様性練習効果」と呼ばれる

発育発達期の身体的特徴②運動の重要性

ゴールデンエイジ（９～１２歳）

「即座の習得」という特徴

※「プレゴールデンエイジ」における基本的な動きの習得が大前提

プレゴールデンエイジ（５～８歳）

様々な動きを経験することが大切

山内が20年間学校の担任をした経験から

①身辺自立

※衣服の着脱、食事、排泄などの身辺自立に関する生活能力

【自分で起床できるかについて調査】

なんと　小1→約50％

小6→約70％

中3→約70％

身につく時期に身につけさせないともう身につかない！　手遅れになる！

身につける力→ヴァインランドⅡの基礎知識

そもそも病名はどのような基準でつけられるか！

『ICD10・11』・・WHO・・（世界基準！？）

『DSM』・・アメリカ精神医学会・（専門！）

自閉症研究の第一人者：レオ・カナー

『DSMⅣ』→ 最新版『ＤＳＭⅤ』へ改定！！

・広汎性発達障害→自閉症スペクトラム

・知的障害に関してIQの妥当性が科学的に根拠がないとのことで除外された。

・「知的能力障害は、発達期における知的機能と適応機能両面の欠陥を含む障害」と診断基準を変更

つまり、必要な力は・・・・

知的能力＋適応能力

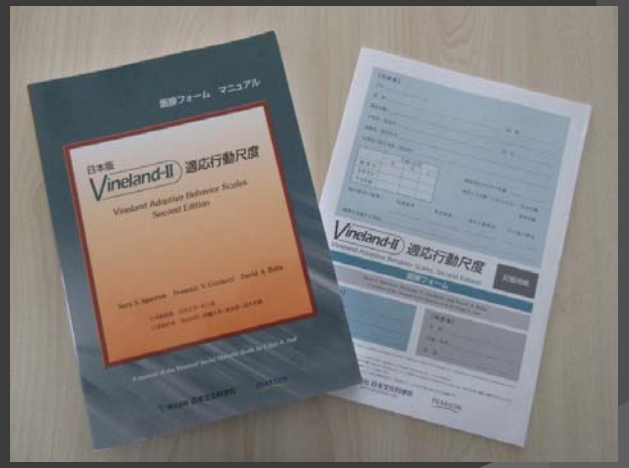
（IQ・学力）　　（社会性）

しかし、実際は→　　知的能力

適応能力

ヴァインランドⅡ適応行動尺度の内容

①コミュニケーション領域
②日常生活スキル領域
③社会性領域
④運動スキル領域
⑤不適応行動領域



※５つの領域から構成されている

ヴァインランドーⅡ適応行動尺度

①コミュニケーション領域

□受容言語

・どのように話を聞き、注意を払い、何を理解しているか

□表出言語

・何を語り、情報を集めて提供するためにどのような言葉やセンテンスを使うか

□読み書き

・文書の組み立て方について何を理解し、何を読み書きするか

ヴァインランドーⅡ適応行動尺度

②日常生活スキル領域

□身辺自立

・どのように食事し、服を着て、身の回りの衛生を実施しているか

□家事

・どのような家事を行っているか

□地域生活

・時間やお金、電話、コンピューター及び仕事のスキルをどのように使っているか

ヴァインランドーⅡ適応行動尺度

③社会生活領域

□対人関係

・他人とどのように関わっているか

□遊びと余暇

・どのように遊び、余暇の時間を使っているか

□コーピングスキル

・他人に対する責任と気配りをどのように示しているか

ヴァインランドーⅡ適応行動尺度

④運動スキル領域

□粗大運動

・協応運動のために腕と脚をどのように使っているか

□微細運動

・物を操るために手と指をどのように使っているか

ヴァインランドーⅡ適応行動尺度

⑤不適応行動領域

□内在化問題

・不安・抑うつや食事・睡眠の困難、社会的な関わりの回避など、本人のウェルビーイング（幸福感）に影響を与える行動をどの程度示すか

□外在化問題

・多動・衝動性や攻撃行動など、周囲への影響を生じさせる行動をどの程度示すか

□その他の問題

・習癖や不注意など内在化・外在化問題のいずれにも属さない行動をどの程度示すか

しかし、ヴァインランドーⅡは、
取り扱いが難しい！　専門性が必要

・支援計画を立てるとき、より細かい目標設定には有効
・S－M社会生活能力検査の129項目全て達成時の次のレベル

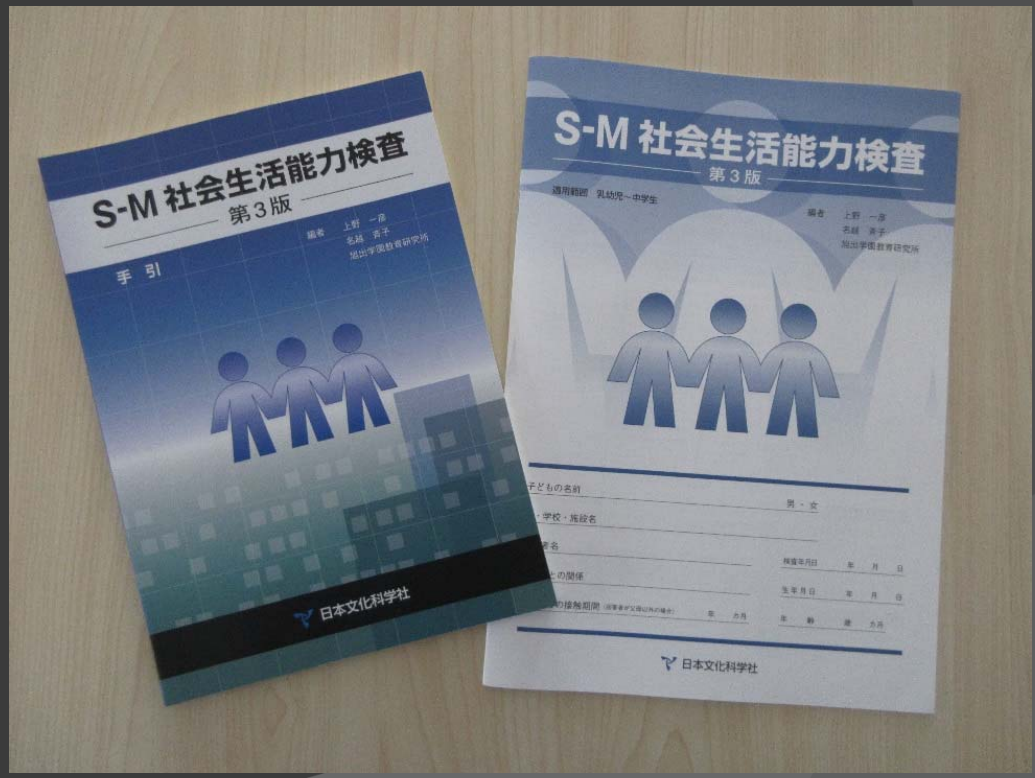
そこで→「S－M社会生活能力検査」

□取り扱いが簡単
□その他の問題
・アセスメントとして保護者に分かりやすい

まずは、何を身につけることが重要なのか

※0歳～15歳までに身につけたい社会性
～S－M社会生活能力検査から～

1　身辺自立
2　移動
3　作業
4　意志交換
5　集団参加
6　自己統制



就職するために必要なことは・・・・

大山会長（日本理化学工業）
の採用条件

- 身辺自立
- 自分で会社に通う
- 「やろう」と言われたらすすんでやる
- 仲間にいじわるをしない
- 気持ちのよいあいさつ

次回８月６日（日）10時～12時
の講演会では・・・

～未就学や小学校低学年から取り組むと効果的～

「お子さんの力を正しく把握して
今後の療育について考える」

〇講演会の中で実際に社会生活能力検査を行います
〇講師の学校心理士からアドバイスが受けられます

※実際にＳ－Ｍ社会生活能力検査を活用し、具体的な
実態把握と今後の支援の見通しがもてる講演会です。

◎６日夕方からと翌日７日・８日は、個別相談会も開催

園の“加配のあり方”に注意！

『加配がいないとできない子』

▲年長の最後まで全力で加配の指導員が支援する

◎年長になってきたら、支援員がつかなくてもできるようにする支援

◎困ったときには子どもが自らヘルプが言えるようにする支援

WISCはどのような力を測っているか①

全検査ＩＱ　全体的な知的能力の発達水準を推定する

言語理解　言語理解能力を測定する
言葉の概念を捉えて、言葉を使って推論する能力を測る

知覚推理　非言語的な情報をもとに推論する力を測る
新奇な情報に基づく課題処理能力を測る。

WISCはどのような力を測っているか②

ワーキングメモリー

聞いた情報を記憶に一時的にとどめ、その情報を操作する能力を測る

処理速度

単純な視覚情報を素早く的確に、順序よく処理、あるいは識別する能力を測定する

知能指数を上げる家庭用療育機械

その名は「脳機能バランサー」

①ＣＤを買ってパソコンに入れるタイプ
　※タッチ式がよいです。
②データを買ってタブレットに入れるタイプ「脳機能バランサータブレット」
どちらも１万円しません。

一台で３名まで登録可能。家族で楽しむことができる

言語理解を高める方法

○「◆◆って何ですか？」と意味を尋ねる
○「□□」と「△△」は何が似ているか尋ねる
○「なぜ、そのことをしなくてはいけないのか」を説明できるように問いをしていく
○まずは昔話などの「読み聞かせ」を毎日行う
○手品（お客さんを意識して話ながら）
○「しりとり遊び」で語彙力を高める
○「たとえば・・・」を使って話させる
○クロスワードパズル

※とにかく大人との豊かな言語活動を増やすことがポイントとなる

知覚推理を高める方法

〇パズル（簡単なものから難しいものへ）
〇間違え探し
（「ウォーリーを探せ」「トコちゃんはどこ」）
〇カードゲーム
（ウノやトランプ、子どのカードゲームも可）
〇ボードゲーム
（ドンジャラ・オセロ・将棋・囲碁・チェス）
〇ルービックキューブ
〇ジェンガ
〇迷路遊び
※その他有効な知育ゲームや遊びが多くトイザラス等で販売されています。

ワーキングメモリーを高める方法

○トランプ等カードの神経衰弱
　（まずはカードを少なくしてはじめるとよい）
○自宅の住所と電話番号を覚える
○家族親戚の名前を覚える（できれば携帯も）
○カルタ遊び・百人一首遊び
○文章問題を暗算で答える
○ピアノやヴァイオリンなどの音楽関係
　（楽譜等を覚えなくてはいけない）
○運動でダンスの振り付けを覚えるのもよい
○本人の好きなもの・趣味を通して覚える機会を増やす（電車・ポケモン・恐竜など）

※「療育」というより遊び感覚で楽しんで行うこと

処理速度を高める方法

〇習字・硬筆・公文学習などの習い事
〇ドミノや積木遊び
〇工作・絵画教室・運動教室・スポーツ少年団
〇料理や畑仕事、掃除・洗濯などのお手伝い
〇学校へ行く準備や服の着替えは自分でやらせる
〇お風呂へ一人で入ることができるようにする時期を早めにする

※親が手を出すのを我慢して、子どもにやらせる
※処理速度は訓練すれば誰でも早めることができます。他の能力に比べて一番訓練によって伸びます

（例）キャベツの千切りもやった分だけ上手くなる

家庭でできる子どもの力を伸ばすSST①

☆なぜＳＳＴが必要なのか

ほとんどの子は、トレーニングしなくても、周りの人の行動を見て身につける。→「観察学習」と言います。例えば「人が怒られているのを見て自分はやめようと思う」

☆その理由は・・・・

ところが、実際の社会（学校）の中では、決まったことをすればよいのではなく、自分で判断するという「応用の行動」をしなくてはいけない。発達障害の子は、観察学習が苦手で、常識的にふるまうことや、推測すること、場の空気を読むことが苦手でトラブルになる。→そこでＳＳＴ

家庭でできる子どもの力を伸ばすSST②

ＳＳＴの進め方

①教示　言葉やカードで教える

②モデリング　先生や友だちで手本を見せる

③リハーサル　模擬場面等で実際にやってみる

④フィードバック　行動を振り返りほめる

⑤般化　どのような場面でもできるようにする。

簡単に言うと

やって見せて→言って聞かせて→させてみて

→誉めてやらねば人は動かじ

（山本五十六）

☆特に“やって見せること”が大切となる

家庭でできる子どもの力を伸ばすSST③

ＳＳＴの具体的な活動

１．ＳＳＴはゆっくり進める（スモールステップ）

２．しかる→×　　できたことをほめる→◎

①言葉でほめる
- □すぐにその場でほめる。
- □大げさにほめる。
- □表情も豊かにほめる

②ほめ方の工夫
- □シールなどでほめる
- □メダルや賞状
- □累積するものを掲示する
- □シールの色や形を工夫

③家庭や学校と協力してほめる
- □送迎時の一言も重要
- □連絡帳に伸びたポイントを！

家庭でできる子どもの力を伸ばす
構成的グループエンカウンター①

☆構成的グループエンカウンターとは
「自己理解」「他者理解」「自己受容」
「自己表現」「自己主張」「感受性の促進」
「信頼体験」を目的として学ぶもの

☆エンカウンターとは？
「出会い」と言う意味　「出会い」とは、心と心の通じ合う「私」と「あなた」の関係のこと

☆出会いの意義とは何か
人は、「あなた」に会って私になる。人間が一個の人格として生きていくためには「あなた」との出会いが、欠くことのできない重要な意味をもつ

家庭でできる子どもの力を伸ばす
構成的グループエンカウンター②

☆まずは自己開示

　人は、多様な方法で自己表現することで自分を癒し、人を癒すことができる。

　エンカウンター＝出会いがある所に癒しがあり、更に自己啓発や自己改革があり、究極的には人間的成長がある。

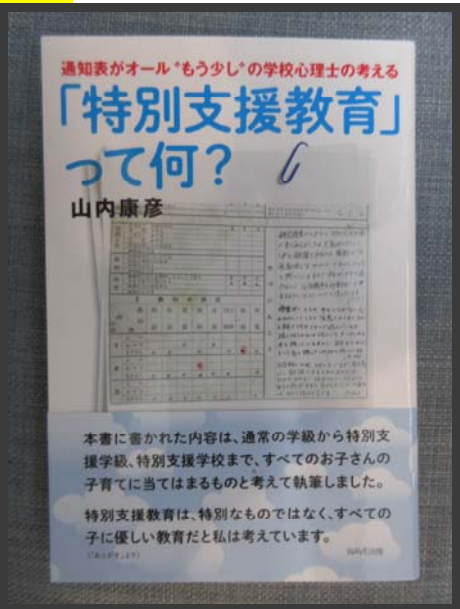
（簡単な実践例）アイスブレイク

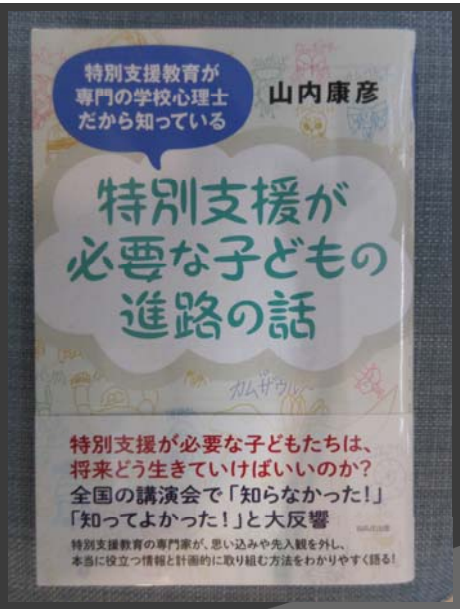
①好きな色を話す→②将来の夢を話す→
→③苦手なことを話す→④悩みを話す

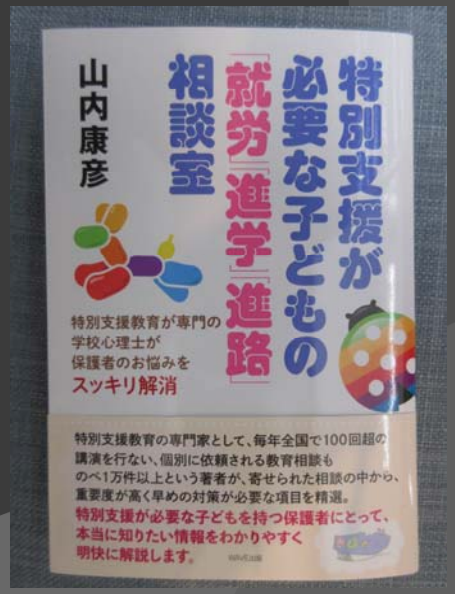
☆徐々に話しにくい内容へとレベルアップしていく

ほめる育て方や進路についてわかる本！

①特別支援教育って何？
②特別支援が必要な子どもの進路の話
③特別支援が必要な子どもの
「就労」「進学」「進路」相談室→※新刊
ＷＡＶＥ出版→書店・アマゾン等で購入可能！







ご清聴ありがとうございました。